

## 就職1年目の看護師が捉える現在の自己像の特徴

村上美華<sup>1)</sup>、前田ひとみ<sup>1)</sup>、影山隆之<sup>2)</sup>

1) 熊本大学 医学部 保健学科 看護学専攻、

2) 大分県立看護科学大学

【目的】本研究の目的は、新人看護師の職業性ストレスに関する精神・心理的アセスメントツール作成の基礎資料を得るために、就職1年目の看護師が捉える“現在の自己像”の特徴を明らかにすることである。

【方法】研究協力が得られた3県の施設に2004年4月と2005年4月に就職した看護師310名を対象に、就職後10ヶ月目に無記名の自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、抑うつ自己評価尺度（CES-D）、Rosenbergの自尊感情尺度、および「今の私は」など8つの刺激文ではじまる文章を完成させる自由記載で構成した。尺度については単純集計を行い、自由記載のうち今回は「今の私は」に続く文章を、クリッペンドルフの手法で内容分析を行った。倫理的配慮として、調査開始にあたり、研究の趣旨及び方法、協力の自由、プライバシーの保護について文書で説明を行い、研究参加の意思を書面で確認した。

【結果並びに考察】有効回答数は303名（97.7%）、平均年齢は23.6±2.7歳であった。CES-Dの平均は23.3±11.7点であり、16点以上の高抑うつ群が75.9%を占めていた。自尊感情尺度の平均は23.5±4.7点であった。これらのことから今回の対象者は、青年期の平均値に比べ抑うつ度が高く、自尊感情が低いことがわかった。

「今の私は」で始まる文章は292件あり、分類不能な5件を除き整理したところ69のコードが抽出された。そのうち、肯定的な意味を持つコードが23（33.3%）、否定的な意味を持つコードが44（63.8%）、中立的な意味を持つコードと属性に関するコードが各1（1.4%）であった。そして肯定的なコードからは9つのカテゴリーが、また否定的なコードからは8つのカテゴリーが抽出できた。肯定的なものは、『安定した情緒』『自己への肯定的な感情』『パワーのある状況』『自己の成長に対する期待』『開かれた自己の可能性』『充実感』『目標がある』『他者への信頼』『自由』であった。否定的なものは、『パワーレスな状況』『成長しない存在』『コントロール感の喪失』『自己への否定的な感情』『閉ざされた自己の可能性』『不安定な情緒』『燃え尽き感』『他者との関係の困難さ』であった。全てのカテゴリーのうち件数の多かったものは、「疲れている」などのコードを含む『パワーレスな状況』（51件）で、次いで「未熟」などのコードを含む『成長しない存在』（35件）、「不安」などのコードを含む『コントロール感の喪失』（30件）であった。これらの結果から、抑うつ度の高さや自尊感情の低さが現在の自己像に投影されていることが推測できる。また、『コントロール感の喪失』や『燃え尽き感』といったカテゴリーは、離職願望へと結びつく可能性が高く、支援の必要性を示唆するものと考えられる。